

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195300165		
法人名	株式会社 ゆう悠		
事業所名	グループホームとともに中斜里		
所在地	北海道斜里郡斜里町字中斜里23番地36		
自己評価作成日	平成28年10月6日	評価結果市町村受理日	平成28年12月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JigrosyoCd=0195300165-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は4月に開設しました。利用者様の住み慣れた地域での生活を支えるため、家庭的で穏やかな雰囲気、笑顔とふれあいによる居心地の良い環境作りを心掛けるとともに「ひとり一人の思いを大切に」とも安心して暮らすことのできる居場所の創造」を胸に日々支援に取り組んでいます。恵まれた自然環境の中で地域密着を意識し地域の行事に積極的に参加しつながりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

株式会社ゆう悠の2件目となる「グループホーム ともに中斜里」は、斜里岳、海別岳が眺められる雄大な風景の中、平屋建て1ユニットで平成28年4月に開設されている。設立に当たっては、中斜里地区自治会長の、この地域にも介護施設をとの希望と、当事業所代表の考えが合致し開設された経緯があり、開設当初より自治会長や地域住民の様々な協力が得られ、読み聞かせや高校生等のボランティアも定期的及び随時に訪れている。代表者は、両事業所に順次に顔を出し、利用者、職員に声をかけ、共に過ごしており、利用者、職員の安心感につながっている。2事業所共通の理念『ゆっくりとした時間の中で、一人ひとりの思いを大切に、共に(ともに)安心して暮らすことのできる居場所を、みんなの力で創造していきます』は事業所内掲示は基よりパンフレット、重要事項説明書、勤務表、会議録等、目に付く所に記載して浸透を図り、介護サービス提供の指針として実践すべく取り組んでいる。利用者の残存能力維持の為、楽しく活力ある毎日を提供する事を目指し、散歩をはじめ、外出支援に多く取り組んでいる他、食器洗いや食事の準備等の役割を職員と一緒に楽しみながら行っている。事業所内も様々な工夫があり、利用者が迷わない様トイレのドアを色分けしたり、テーブルの形や高さ、椅子も高さの違うのを用意しており、常に利用者にとって最善、最良の方法を検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目の触れる場所に掲示し毎月の職員会議の開催時にも毎回確認しています。	代表者の思いを込めた2事業所共通の理念は、玄関、職員休憩室に掲示しており、勤務表、会議録等に掲載し毎月の会議時に確認し指針としている。更にパンフレット、重要事項説明書、事業所便りにも掲載し、家族にもお知らせしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域の行事に積極的に参加しています。畑、花畑作りにも自治会の方々と一緒に作業したりと交流がもたれています。	開設時から良好な関係を築き、自治会に加入し、地域の行事のお誘いを受けている。自治会長が時々訪問してくれており、災害対策や花壇、畑仕事等の協力を頂いている。ボランティアの受け入れも多く行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一回の運営推進会議で地域の方より質問を受けることがあり話を聞き相談に乗ることがあります。気軽に相談できる場として利用して頂けるよう努力しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではヒヤリハット、事故報告をして質問意見交換を行いサービス向上に努めています。入居者様と一緒に会食をする等交流も図られています。	利用者家族、自治会役員、民生委員、社協職員、特別養護老人ホーム職員、行政職員等をメンバーとして開催し、状況報告やヒヤリハット報告、職員研修報告、意見交換等が行われ、サービス提供に反映させている。議事録は家族全員に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員に役場担当者様も加わっているため不明な点や相談など電話や面談で連絡を取っています。また役場保険課の歯科衛生士さんにご協力を頂いて口腔ケア講習会、口腔検診を行っています。	運営推進会議への出席が有り、日頃より連携に努め、サービス向上に取り組んでいる。代表者は行政と協力し、高齢者介護事業所連絡協議会の役員を引き受け、町内の高齢者福祉向上に寄与している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を行い身体拘束についての学習を行っています。新しく入った職員についても新入社員研修を行い問題が生じたときは対処法を話し合いながら身体拘束を行わないように取り組んでいます。	外部、内部研修で身体拘束の及ぼす弊害を学んでいる。代表者、管理者、職員は日常何気なく使用している言葉使いも検討し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修にて虐待について学んでいます。新入社員も新入社員研修の場で虐待防止の徹底を学んでいます。		

グループホームともに中斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修、新入社員研修で学習の場があり制度について勉強し活用できるよう努力しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず2名以上で対応し費用等の重要事項を時間をかけ説明し疑問等に対して丁寧にお答えをし理解を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が窓口となり苦情に対応しています。面会時などの機械を利用し要望等聞くようにしています。他職員が聞いた場合は速やかに管理者に報告し対応しています。	家族の面会時には様子を伝えると共に、遠くの家族以外には毎月請求書や事業所便りを持参して様子をお知らせし、コミュニケーションに努め、何でも言って貰える関係を構築している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日行う職員会議で意見を聞き運営に反映させています。	代表者、管理者は毎月の職員会議や日常業務の中で職員の意見や提案を聞く様に努め、運営に反映させている。職員は各自年間目標を定め、テーマを決めて内部研修の講師を務める事でモチベーションアップや介護技術向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は数時間でも職員と関わりを持ち相談やアドバイスをしています。毎年12月に職員全員に面談予定です。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回の内部研修ではその月の担当者が研修内容の勉強を行い講師となり学習しています。また外部研修や国保病院主催の研修に参加し学んでいます。職員が資格取得の際に町からでる研修費用の助成を活用させて頂いています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のGHや特養の職員に運営推進委員をお願いしたり地域ケア会議やケアマネ連協に参加しています。また入居者様のご家族がいらっしゃる別の施設への訪問等同業者との関わりを大切にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学に来て頂いたり、自宅に職員が訪問させてもらい顔見知りになり少しでも不安をなくすよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の話をよく聞かせて頂き不安を解消できるようなサービスを提供することと良い関係作り、協力できる体制を保てるよう努力しています。入居前に体験サービスに来て頂いたり昼食を一緒に食べたりレクレーションを行ったりしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	安心して利用できるよう地域のケアマネと連携をとり他のサービスも含めできる限りの対応の検討をすることとしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のできることや昔からやっていたことなどを把握に努めています。日常の会話を大切にし様々な要望が容易に言える居場所を実施するための職員配置等の工夫を行っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様、ご家族様の思いを職員が受け止めGHでの行事に参加して頂いたり外泊や外出、お誕生日には来て頂く等家族の絆を大切に考えています。またGHでの暮らしがわかるように毎月、通信をご家族様に発行しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、顔見知りの方など面会も多いです。入居前に通っていた美容室や自治体でのつながりも大切に、入居後も同様に関わることができるよう支援を行っています。	友人や知人が訪問した時には歓迎し、一緒に昔の話を聞いたり、馴染みの美容室や以前住んでいた所を訪ねたりと、利用者のこれまでの関わりの継続支援に努めている。個人で新聞を取ったり、お抹茶をたてたりと利用者の以前からの趣味や仕事、習慣を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握に努めています。より良い関係が築けるように職員が介入し、支えあえるよう支援をしています。		

グループホームともに中斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	町内で出会ったときには挨拶を交わし、関係性の保持に努めています。入院された場合はお見舞いに行ったりお亡くなりになったときはお通夜に出向かわせてもらいこれまでの関係を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それまでの生活歴、ご家族の方からもお話を伺いひとり一人の思いや希望の把握に努めています。	センター方式を活用し、生活歴を把握すると共に、日々の関わりの中での会話や様子から希望や要望の把握に努めている。日中帯の職員配置にゆとりを持たせており、職員は利用者とはゆっくり話をする時間を持つ様心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートを使って今までの生活歴が把握出来るようにしています。何か新しいことがわかりましたらその都度追記をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の状態、その日にあったこと等職員がわかるよう記録に残しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員で定期的にモニタリングや介護計画等、話し合っています。また、ご家族の方からもご意見を聞き介護計画に盛り込んでいます。	利用者、家族の意見や要望を取り入れ、職員の意見を参考に現状に即した介護計画を作成している。担当者によるモニタリングは毎月行うと共に、毎日の介護記録は細かく内容を記入する様にし、ケース検討会議で介護計画の実施状況を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、24時間様子が伺える記録用紙を活用しています。入居者様の行動がわかるように職員間で情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のニーズに柔軟な対応を心掛けています。外出や他施設への訪問といった多機能化に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館や道の駅を利用したり役場に出向き選挙の期日前投票を行う等地域資源を活用させてもらっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には病院受診はご本人とご家族の希望を大切にしています。各病院の調節は主に施設看護師が行っています。清里クリニック様の往診も対応しています。	利用者、家族の希望するかかりつけ医へは家族対応で通院しているが、状況によっては事業所の看護師が同行している。受診の様子は受診記録に記入し、職員間で共有している。内科医の往診も行われている。事業所の看護師が24時間対応で健康管理を行っている。	

グループホームととも中斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師は24時間体制で連絡を取ることができ介護職員は不調者がでた場合にすぐに相談できるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院のときは職員又は看護師が同行しています。病状の経過を説明文章にて状態を報告しています。退院時についても生活状況に変化はあるのか服薬の確認等病院との連携に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期のあり方の指針を伺っています。またそのようになったときの事を考え職員は内部研修の場で学習しています。	契約時に重度化した場合における看取り介護(ターミナル)指針を説明し同意を得ている。又、事前調査表で意向を確認している。必要時に備え、内部研修で学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の訓練をしています。定期的に行う予定です。事故発生時にはマニュアルに沿って対応できるよう心掛けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣住民、運営推進委員、ご家族の協力のもと年4回避難訓練を行い、いろいろな場面も想定し安全に避難ができるよう体制を整えています。	避難訓練は年4回行う事にしている。想定も日中、夜間交替で実施し、地域住民の参加も得られている。避難連絡網には地域住民の協力があり、連絡手順や地域住民の役割等が文章化され地域住民に配布されている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を職員間で把握し誇りやプライバシーを守るよう心掛けています。新しく入った職員については社員研修の場で学んでいます。	代表者、管理者、職員は利用者を人生の先輩と尊敬し、慣れを戒め、利用者の自発性を尊重した言葉かけや対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご本人が選択、決定ができる様働きかけています。一人一人に関わりをもって表情やしぐさからわかるように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望にそって努力しています。定期的な外出については前もって予定をし職員配置等ゆとりが持てるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に床屋さんや美容院に行く外出をしたり洗面所には石鹸やブラシ等配置しています。お化粧品がなくなった場合はご本人、ご家族に相談させてもらい購入してもらっています。		

グループホームともに中斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや食器洗いを職員と一緒にしています。畑でとれた野菜も食卓に並び季節を感じる食事になっています。食事の前には嚥下体操を行いむせや誤嚥等にならないよう予防対策をしています。	調理専門職員が在籍しており、利用者の好みや季節感を考慮した献立を作成している。職員と一緒に食事の準備や後かたづけを行ったり、食材の買い物に出かけたりと利用者の参加を大切にしている。時には面会に来た家族も加わり、利用者、職員と食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分摂取量を把握し記録しています。また自力で食べることができない入居者様については食事介助をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	役場保健課の歯科衛生士に来てもらい、口腔ケアの大切さ義歯洗浄の正しいやり方等を入居者様と職員と一緒に学びました。それにより毎食後の口腔ケアが定着してきました。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや習慣の把握に努めています。自尊心を傷つけない様心掛け、トイレでの排泄に心掛けています。	排泄記録を参考にタイミングを把握し、自尊心を傷付けない様に配慮した支援に努めている。トイレのドアが居室と向かい合わない様に互い違いに成っており、利用者が使い易い様トイレの向きも工夫されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し水分を摂ってもらうよう心掛けています。排便状況により看護師指示のもと下剤の調整も行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日の設定はありますがその日の体調や気分に応じて変更するときもあります。その場合は必ずご本人と相談しています。	体調に留意し、週2回は入浴出来る様に支援している。入浴拒否の利用者には日を変えたり、声かけの方法を職員間で検討し、気持ちよく入浴出来る様に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動して夜は寝るといった基本的な生活習慣を大切にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方状況は個人記録に添付し職員がいつでも確認できるようになっています。確実に服薬できるよう個別で薬をもっていきしっかりと飲んだかを確認しています。薬が変更になったときは日誌や受診記録で引き継ぎをしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を把握しやりたいことができるように声掛けや支援に取り組んでいます。また、自らやりたいことが発信できるよう雰囲気作り心掛けています。		

グループホームともに中斜里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や畑に行く等の外出支援があります。近くの神社祭りに出向き何十年ぶりに盆踊りを踊ったと喜んでもらえたり地域の方にも協力して頂いています。	体調や天候を考慮しながら、日常的に散歩や畑に出かけている。季節に合わせた外出やドライブに出かけ、外食を楽しんだり、地域の行事に参加し地域住民と交流したり、高校生ボランティアの協力を得て買い物に出かける等、積極的に外出支援を行い、楽しみ事を提供している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に所持金は施設で保管させてもらっています。となり町のお祭り時には一緒に行動しご本人のお金で神社にお参りをするといった希望を聞いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手が震えて書けない入居者様への代筆支援や、遠方の家族へ電話をかけること等の支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内、温度や湿度の管理をし快適な空間を過ごしてもらおうと注意しています。施設から見える斜里岳、海別岳を見ながら季節を感じることもできます。窓から景色を眺めながらゆったりと食事をしてもらっています。	事業所内はスペースが十分取られ、トイレのドアや配置、テーブルの形や高さ等随所に工夫がされている。リビングの窓からは雄大な景色が眺められ季節の移り変わりが感じられる。温度湿度も管理されて快適な居住空間を提供している。3台の洗濯機を用意し、内1台は汚染された衣類等の専用として清潔を保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	開設したばかりの施設ですがフロアではテーブルの位置をずらしたりソファの位置をずらして、落ち着ける空間を作り一人一人の居心地の良い場所ができるように配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使っていた家具や使い慣れた小物の使用好きな観葉植物や写真を飾る等、ご本人の希望を活かし工夫しています。また安全に動けるよう危険なところはないか気を配っています。	居室には押し入れが設置されている。利用者は使い慣れた家具や家族の写真を飾ったり、鉢植えの草花を置いたり利用者の個性に合わせた部屋作りと成っている。各部屋に加湿器、温湿度計を設置し、居心地よく過ごせる様に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は広い空間で壁や廊下にはほぼ手すりがついていて床はバリアフリーです。安全に移動ができるようになっており一人一人の居室には分かりやすいお名前や写真、飾りつけを工夫しています。トイレの戸の色を変え居室との違いが判るようにしています。		

目標達成計画

事業所名 グループホームともに中斜里

作成日：平成 28年 12月 8日

市町村受理日：平成 28年 12月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		入居者の高齢化が進み、心身ともに機能の低下が予想されることが課題である。	現在の身体機能の維持及び向上を目標に計画性をもって支援に取り組み、生活意欲の向上を目指していきます。	・町や自治体と一緒にホーム内にて定期的に体操をする場を設ける。(いきいき体操) ・入居者の主導で食事メニューを考え調理をし後片付けをする。 ・入居者の状態を職員間で把握し、統一した支援ができるよう努める。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。